

社会民主党機関紙

NO.106

熊本県版

社会新報

THE SHAKAI SHIMPO

2026年秋号 (曜日) 号外

発行所

社会民主党全国連合機関紙宣伝局

週刊(木曜日発行)

〒104-0043 東京都中央区湊3-18-17マルキ熊本ビル5F

電話代表 03(3553)3787・振替 00140-1-3203

●定価185円 ●1ヵ月720円 ●送料168円

「被災者の命」と「国家の都合」、どちらが優先？！ 熊本地震から10年、政権の災害対応を問う 『月刊社会民主』9月号のご案内 気ままにひとこと

社民党熊本県連合代表の今泉克己です。

『月刊社会民主』2026年9月号に掲載されたジャーナリスト・大谷昭宏氏のコラム「気ままにひとこと：熊本地震でも国家情報会議を優先する国民不在の高市政権」は、私たち熊本の住民にとって決して見過ごすことのできない重要な示唆を含んでいます。

2016年の熊本地震から10年が経過した今夏(2026年7月28日)、熊本は猛暑と新たな地震(宇城市や氷川町で震度7を記録)に見舞われ、多大な二重被害を受けました。多くの被災者が避難生活や酷暑、断水に苦しむ最中、政権のトップが何を優先していたのか——本記事は首相動静という具体的な事実に基づき、被災者の救済や現場への指示よりも「国家情報会議」や「NIB(国家情報局)」といった安全保障・情報収集機構の立ち上げを優先した姿勢を鋭く追及しています。

【熊本の皆さんに知ってほしい現実】

1.「被災者の命と生活」が置き去りにされる現実を捉える

災害対応の現場では、自治体職員や警察・消防、自衛隊が夜を徹して救助にあたっています。しかし、国のトップが「国民の安全・安心」よりも「国家の都合」を優先する政治姿勢をとるとき、その不利益を真っ先に被るのは私たち現場の地域住民です。本記事は、地域の危機において国政がどう動いたかを検証する視点を与えてくれます。

熊本地震でも国家情報会議を優先する国民不在の高市政権

気ままにひとこと 大谷昭宏



